

---

# とある学園都市と白銀の少女

K 9 9 9

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

とある学園都市と白銀の少女

### 【Zマーク】

Z55071

### 【作者名】

K9999

### 【あらすじ】

初めての小説投稿です。駄文だと思いますが、それでもよければ読んでみて下さい。

オリジナルキャラもです。

## 始まりは突然に？

私の名前は衛宮結衣て言います。高校1年生で、趣味は料理と鍛錬の普通の女子高生ですが、実は私魔術師であります。

このお話は高校生活にも馴れてきた頃の事でした。

「ここはどこだらう？」

周りはビルや見慣れないお店が建ち並んでいた。私はこんな場所見覚えないし、ここにきた記憶もない。

冬木市にはこんな場所無いはず何だけどなあ。今日は確かにいつも通り学校に行って、放課後は凛さんの家に行つたんだ。だけどそれから何が……あつたけ？

思い出せないなあ。まあ今は此処がどこなのかを把握しないと。それから私は街を歩き回つた。街には見たことのないジュースが売つている自販機があつたり、見覚えのないロボットがあつたり見たことのない物が多い。

「本当に此処はどこなんだらう？早く家に帰りたいだけなあ。」

そんな事考えながらも歩いてると電光掲示板を見つけた。  
電光掲示板には、学園都市第七学区と表示されていた。

## 始まりは突然に？

学園都市？聞いた事ないなあ。新聞やニュースでも聞いた事ないよ。  
どうしよう。

そもそもなんで私はこんな見たことのもない所にいるんだろう。

……そりだ！確かに凛さんの家で……

### 【今日の放課後】

やつと着いた、遅くなつたなあ。

「ここにちは凛さん、遅くなりました。」

この綺麗な女性は遠坂凛さん。父と母の友人で、私の魔術の師匠で  
もあり一流の魔術師です。

「いらっしゃい結衣。これから実験するから、地下室に急いで来て  
ね。」

最近は第二魔法の研究のために実験の手伝いをしていて、ここ最近  
は放課後凛さんの家に毎日来ています。

「わかりました。」

### 【現在】

そうだ思い出した。確かにその後、実験を始めたのはいいのだけれど、  
凛さんのうつかりで実験は失敗して虹色の光にのみこまれて……。  
気がついたら倒れていて。まさかここは平行世界！それとも異世界  
かも……。

もしさうだとしたらこれからどうしよう。

その後自販機でジュースを買つた。幸いにこの世界でも問題なくこ  
つちのお金が使えた。それにしても、いちごおでんとかガラナ青汁  
とか凄く不味そうな味のジュースよく売つてるなあ。

公園のベンチに座りヤシの実サイダーを飲みながら「これからをを考える。

手持ちのお金は最近出たバイト代も持っていたから5万円は持つていふ。

だけどいつ帰れるかは分からぬし、住む家もないし寝る場所もない。これからどうすればいいんだろ？

「ああどうしよう。」そんな事を考えながら悩んでいたと、

「どうですか？」ピンクの髪の小さな女子に話しかけられた。

## 小さな女の子

小さな子だなあ。話しかけてきた子は、だいたい130cmぐらいかな? ランドセルが似合いそうな女の子だ。

「見慣れない制服ですね。どこの生徒ですか?」

そういえば今の時間は夜10時過ぎ。こんな時間に女の子がベンチに独りで座っているのは変だよね。

「聞いてますかー?」

「あ〜〜めんな。どうしたの?」

「どうしたの? ジヤないです。どうもつて言つていたから、心配して話しかけたです。」

えっ! ……さつとき口に出していたんだ。

「なんでもないから大丈夫です。」

「う〜ん。もしかしてあなた家出ですか? よかつたら家にきますか?」

えつ?

どうやら私は家出していたと勘違つされたみたいですね。

そして私はなぜか、小さな女の子のアパートの前にいる。アパートの外觀は、……ボロボロで、家賃の安い所だ。

「遠慮しないで入つていいいですよ。」

「はい、お邪魔します。」

部屋に入つてみると、室内は煙草の吸い殻がいっぱいの灰皿や、ビールの空き缶がたくさん転がっていて、少し汚い。まるで典型的男の一人暮らしの部屋みたいだ。

この子の親御さんは留守かな？

「親御さんは留守なの？」

「親御さん？私は一人暮らしですよ。これでも私高校の教師をしていますよ。」

えええつー！ー！ー？

高校の教師！—嘘でしょ。どう見ても小学生にしか見えないのに。元有り得…………まあイリヤさんも見た目と年齢が全然違っていたし、あり得るかも。

そういえば

「あの、まだ名前を聞いてませんよね。」

「ああそうでしたね。」

「私の名前は衛宮結衣であります。」

「結衣ちゃんですか。私の名前は月詠小萌でいらっしゃいます。」

## 翌朝の出来事

朝5時45分に私は目が覚めた。

「えーとこには。」見慣れない部屋だな。何でこんな所にいるんだろ？

まずは昨日あつた事を整理しよう。

えーと確かに私は学校に行って、放課後に凜さんの家に行つたんだ。それから魔術の実験の暴走に巻き込まれて、気付いたら見知らない場所にて、公園で小萌さんに会つたんだ。

その後小萌さんの家に着いて、小萌さんは私の事情などは特に聞かず、

「夜遅いので今日はもう寝ちゃいましょう。」とか言つて寝たんだつた。

今に至る経緯を思い出せたし、あれ？

「そひいえば小萌さんは？」

ふと布団見ると、小萌さんはウサギ柄のぶかぶかなパジャマ着て幸せそうに寝ている。

よしまずは、泊めてくれたお礼も兼ねて朝食を作らうかな。

そして私は冷蔵庫を開けた。中にはビールの缶が沢山並んでいた。  
さつと見て50本ぐらいある。

「えーと他には」卵とベーコンにレタスとチトマトとかもうりか。

目玉焼きと簡単なサラダとパンでいいか。  
メニューも決めたし早速作りますか。

6時

「下揃え終わり。」

サラダは盛り付けも済ませて冷蔵庫の中にしまったし、ドレッシングは食べる直前にかければいい。目玉焼きは小萌先生が起きたら作ればいいか。

小萌さんが起きるまで何していよう。

「暇だな。」

いつもなら朝は母さんと道場で鍛錬しているからな。せめてランニングぐらいはしたいんだけど。でも持ってる服は、今着ている高校の制服だから、着替えないしなあ。

そうだ。この世界に来てから魔術を使ってないし、試してみよう。

ちなみに私が使える魔術は、固有結界（無限剣製）と投影魔術と魔王結界と、簡単な基本的な魔術などが使える。

何故か知らないが私は父と同じ魔術が使えるんだ。凛さんも何故同じ魔術使えるか解らないそうだ。

トレースオン  
「投影開始」

血口呪文を呴く。

私が使おうとしているのは投影魔術。

イメージするのは双剣干将 莫耶。

創造理念を鑑定し

基本となる骨子を想定し

構成された材質を複製し

製作に及ぶ技術を模倣し

成長に至る経験に共感し

蓄積された年月を再現する

トレースオフ

「投影完了」

「結衣ちゃん何をしたんですか！？何で急に剣が出てきたですか！？  
ね。

「投影は問題無く出来た。この世界でも問題無く魔術が使えるみたい  
！」

えつ？もしかして私の魔術見られちゃった！…………

朝から晩まで…毎日のように（前書き）

すこしく日々の投稿です。

## 朝からパンチ…パンチ

しまつたああ。

小萌さんが起きてるなんて気がつかなかつた。  
もしかして凛さんのうつかり癖移つたのかな？

今はそんな事よりも、小萌さんにどう説明しよう？

投影魔術使つてる所バツチリ見られちゃつたし、この状況で下手な  
言い訳しても信じてもらえないだろうし、納得しないよね。

私は人を殺してまで口封じなんてしたくもない。だからといって記  
憶を消すよつた器用な魔術は使えないしなあ。こんな事なら凛さん  
に習えよつかった。

「ハアー」

いまさら後悔してもしちゃうがない。

私はため息をつきながらも手に持つている投影した剣を消す。  
その光景にまた驚きながらも小萌さんは、

「結衣ちゃんあなたいつたい何者ですか？私が知つてている超能力者  
でもこんな事できる人知らないです。」

「今私が使つたのは魔術です。実は私魔術師なんです。」

「魔術？」

それから私は小萌さんに、魔術の事や凜さんの魔術の実験の失敗が原因で他の世界に私がきてしまい、どうすればいいか悩んで途方に暮れていた事も話した。

「えーと凄く突拍子もない話だと思いますが信じてもらえますか？」

こんな話そんなに簡単に信じてもらえないんだろうなあ。もし私が小萌さんだったらこの話絶対に信じないだろうな。

「はい。信じますよ」

「そうですね。

こんな話簡単に信じてもらえるはずない……」

あれ？！

「えっ！…なんで？」どうしてこんな簡単に信じてくれるんですか？！

「それはですね、魔術を使つた所を実際に見たですし、……

なにより会つて間もないんですけど、結衣ちゃんは嘘をつくような子ではないと私は思いました。だから信じますよ魔術の事も他の世界から来た事も全部信じます。もし結衣ちゃんがよければしばらくは家にいてもいいですよ。ただし家事は手伝つてもらいますけどね。」「

知り合つたばかりの私を、信頼してくれるなんてなんていい人なんだろう。父さんみたいな優しい人がこの世界にもいるんだな。

「小萌えさん、ありがとうございます。後不束者ですがよろしくお願ひします小萌さん。」

「よろしくです結衣ちゃん、それはやつと朝食食べましょ。」

「うして私は小萌さんと一緒に住む事になつたんだ。トーストを食べながら前いた世界の事を話しながら楽しく食事をしていた。

でも私はまだこの世界の事全然を知らなかつた。学園都市が普通の街では無いことを

## 主人公のプロフィール

名前	衛宮	結衣
性別	女	
身長	151cm	

体重 秘密

趣味 料理と剣術の鍛錬

好きなもの 和食 莓 甘いお菓子

嫌いなもの 辛い料理 虫 いちごおでん

Fate/stay nightの衛宮士郎とセイバー（アルトリア）の子供です。

高校一年生で高校生活にも慣れてきた早々第一魔法（平行世界の観測や移動する魔法）の実験が原因で他の世界に飛ばされた不憫な主人公。

眼は碧色、髪の色は白みがかつた銀色で髪型はボーテール。タイトルの白銀の少女はユイの髪の色の事である。

小さな頃から母<sup>セイバー</sup>に鍛えられていて剣の腕前はサーヴァント相手でも打ち合えるほどである。

また弓矢の腕前も達人級である。他にも槍や拳銃などの武器の扱いにも精通している。

魔術に関しては幼少の頃から遠坂凜に習っている。父は魔術を教えるのに自信がなかつたため凜に頼んだ。  
シロウ

結衣は投影魔術や強化や後簡単な防音結界や解析魔術などを扱える。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5507i/>

---

とある学園都市と白銀の少女

2011年2月24日19時23分発行